



発行日：令和元年 12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第54回山部会WGを開催しました！

12月6日(金)に第54回山部会WGが恵那市にて開催されました。今回は「山と山村」「森林」という2つの課題に対する解決手法のうち、主に山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインに関する進捗報告と意見交換を行いました。また、懇談会発足10年のとりまとめとして、10年誌編集委員会の活動進捗(キーマンヒアリングや座談会の開催)、流域圏年表の作成状況、他部会に紹介したい事柄や場所に関する情報共有と意見交換を行いました。

日時：令和元年 12月6日(金) 14:00~17:00

場所：HYAKKEI(百経)

参加者：21名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 10年誌編集委員会の取り組みについて

8月以降、月1回のペースで編集委員会を開催し、11月の第3回編集会議で、以下の4つの項目が決まりました。

- (1) 流域年表：座談会のネタとなるもので、ただの年表ではなく、読み物として流域の人の動きがわかるものとする
 - (2) 流域圏懇談会10年のふりかえり：山・川・海・市民の各部会の座長に10年の活動内容を執筆いただく
 - (3) キーパーソンヒアリング：地域部会や市民部会でキーとなった人や事務局のOBの20名程度にヒアリングを行う
 - (4) 座談会：キーパーソン等が一堂に集まり、話し合った内容を文字で残す
- これらを10年誌として、来年8月を目標に公表したいと思います。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

以下の3つの項目について、話題提供と意見交換を行いました。

《矢作川感謝祭・矢作川流域林業担い手100人ヒアリングの進捗状況》矢作川感謝祭は森林組合の恒例行事になりつつあります。また、100人ヒアリングの進捗状況については、1月末のまとめの会で報告したいと考えています。

《奥矢作森林塾の取り組み》(話題提供：奥矢作移住定住促進協議会会長 大島利光氏)

地域の活性化のため、1ターンを積極的に受け入れ就労支援をしています。定住の条件として、林業と農業で生計を立てられるようにする必要があります。多方面からの支援の結果、36軒の空き家がすべて利用されることになりました。

《夕立山森林塾の取り組み》(話題提供：NPO法人夕立山森林塾 理事 岡田敏克氏)

夕立山森林塾では、ヨーロッパの林業の考え方や長野県での林業の取り組みについて研修を行いました。林業に関する勉強会や技術支援を行いながら、恵那の木材を活かしたサービスや商品化を模索しています。

3. 矢作川流域森づくりガイドラインについて

以下の3つの項目について、話題提供と意見交換を行いました。

《岡崎市森づくり協議会》岡崎市では、森林整備ビジョンが策定されて10年が経ったことから、2年計画の森づくり協議会を立ち上げ、改定につなげたいとしています。今回は第1回の協議会の内容を報告します。

《山本源吉(旧額田郡宮崎村村長)の実績について》山本源吉は明治時代に、1000haに散在した村有林を住民の反対に遭いながらも1箇所に52haに集約し、効率的な森林整備の先駆けを築いた。

《恵那市の森林環境譲与税の使いみちについて》(話題提供：岐阜県恵那農林事務所森林保全課課長 小島徳文氏)

2019年度から国の森林環境譲与税が各県に配分されます。恵那市では森林整備検討委員会が設置され、使いみちについて検討が進められています。計画段階として恵那森林組合、恵南森林組合、奥矢作森林塾の3つの事業体にモデル地区になってもらい、意向調査を実施しました。山に対する関心が低いためか出席者は各地区の住民の2割から5割にとどまり、意見も市への委託が最も多い結果となりました。

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインの内容について、以下の項目案が情報共有されました。

- ①思想編：木づかいガイドラインとは/森林組合の存在意義とその方針・取り組み/幼少・青年期からの自然体験・木との触れ合い原体験の重要性について/木材利用促進法とは
- ②実践編：「木づかいライブ スギダラキャラバン」の実績/身近な生活空間を木のアイテムにより豊かにする試み「どこでもシリーズの製品化」
- ③事例編：豊田市・岡崎市・根羽村等・流域圏担い手づくり事例集からの取り組み事例紹介/市民・産・学・官の取り組み事例表からの紹介
- ④森林環境譲与税の活用について：自民党政務研究会への提言/参考になる森林環境譲与税の使いみち事例

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●10年誌編集委員会の取り組み

- ・矢作川流域圏懇談会で関係した人物の相関図については、大変興味深い反面難しいと思う。(丹羽)
 - ▶ 全部を図化することは大変難しいと思う。特に M-easy の戸田社長などは複雑なネットワークの中央に位置すると思うが、その辺を一つの絵にするとわかりやすいと思うし、木の駅プロジェクトの関係を入れることで、広がるものと考えている。(洲崎)
- ・各部会を座長が振り返ることになっているのだが、どのような内容を盛り込むべきかご意見をいただきたい。(蔵治)
 - ▶ 山部会の出発点の考え方を共有いただき、地域持ち回りの会議にしたことを是非含めていただきたい。(洲崎)
 - ▶ 地域持ち回りの上、毎回懇親会を開き、参加者の心を開きながら勉強になる。このようなスタイルにしたのは、大変画期的であり、参加者のモチベーションが上がるものと思われる。このことにも触れていただきたい。(今村)

●矢作川流域圏山村ミーティング

- ・森林施業中の留意事項については森林認証の取得有無にかかわらず、どの森林組合でも必要な事項である。100人ヒヤリングの中では、是非そのような観点についても議論いただきたいと思う。(今村)
 - ▶ 技能職員は、チェーンソーや機械の扱い方はできるが、この山をどう仕立てるかという大きなビジョンは持てない状況だ。総合的なフォレスターの育成が必要だと感じている。(丹羽)
 - ▶ わけがわからず、何か作業だけやるというのは面白くない。それではやり甲斐、生き甲斐が生まれにくい。(山本)
 - ▶ 森林認証を取得すると環境に配慮した資材を使用するようになる。ドイツでは作業の目的を丁寧に教えてくれるので、フォレスターだけでなく、技能職員も作業の目的を説明できる。(城田)
- ・根羽村も空き家の数が50軒くらいある。それを解決する手段を教えてください。(今村)
 - ▶ 市の補助金の引き上げに加え、東濃の木材を利用して安価にリフォームができる。そのうえ、登記などの事務手続きも代行している。古民家のリフォームから登記までトータルで支援していることが大きいと思う。それから、移り住んだあとの就労支援だ。現在、農業と林業で生計が成り立つ方法を模索している。(大島)
- ・夕立山森林塾では、林業体験を行う際に、どのような募集方法をとっているか。(今村)
 - ▶ チラシも配ったのだが、やはり Facebook をはじめとする SNS の力が大きかったのだと思う。(岡田)

●矢作川流域圏森づくりガイドライン

- ・山本源吉が成し遂げた村有林の集約はどんなメリットがあったのか。(今村)
 - ▶ 県は補助金を交付することで林道整備や造林を進めたかった。整備を進めるためには、土地の効率的な集約が必要だったのだと思う。(蔵治)
- ・次回、岡崎で山部会 WG を行う際は、この土地が現在どうなっているか確認したい。
 - ▶ そうしたい。同時に当時策定された森林整備に関する100年計画という冊子も紹介したいと思う。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドライン

- ・木づかいガイドラインとは何かということで、「矢作川流域の中で森林を保全しながら活用し、上下流が連携する」ということを念頭にしている。また、木づかいガイドラインに示される四つの項目のうち、『①思想編』を最初に位置付けるのは、サブタイトルにも示したように「思想がなければ木は使われない・思想がなければ流域連携は成り立たない」というところにある。(今村)

●他部会に紹介したい事柄と場所について(次年度の勉強会に向けて)

- ・日常生活で森林との接点が少ない中下流の人にとって、間伐の意義が理解できない。そのため、放置人工林の問題についても理解が低いと感じている。(山本)
 - ▶ 10年経っても流域の課題だと感じている。今では間伐が進み、観察に適した放置人工林は極めて少ない。(蔵治)
- ・山部会のもう一つの柱は「人と山村の問題」なので、それを端的にわかる訪問先はないものか。(蔵治)
 - ▶ 地域再生をめざしている「つくラッセル」はどうか。(洲崎)
 - ▶ 串原の移住定住の取り組みを見学してはどうか。なお、海に生きる人々の関心事は「砂」だ。先日の小渋ダムでの勉強会でもダムに堆積する砂をどう下流に運ぶかが課題であった。矢作ダムの見学も加えてはどうか。(高橋)
 - ▶ 矢作ダムの見学のあと、三河湾の砂が欲しい場所を歩いてはどうか。(洲崎)
- ・森林組合を知らないという話がでた。根羽村森林組合を見学することで、いろいろな部分が学べると思う。懇談会関係者がどこでもシリーズに触れるとよい。(蔵治)



今後のスケジュール(予定)

第10回山部会「まとめの会」は、1月28日(火)豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

